

暇空茜こと水原清晃に対する賠償命令・刑事事件における起訴に関して

2025年4月18日

一般社団法人 Colabo 代表理事 仁藤夢乃

暇空敗訴ということで当然の結果ではありますが、私たちの活動に会計不正などがなく、暇空茜による発信が事実を歪曲して行われたデマであることが地裁に引き続き高裁でも認定されてよかったです。

加害者に220万円の賠償が命じられたのは、名誉棄損訴訟としては高額とのことですが、暇空茜はColabo とたたかう名目で2億円以上のカンパを集めたと公言しており、彼にとってこの程度の賠償はなんの痛手でもありません。

暇空茜はそれ以外にも、YouTube や X での発信、note での投稿、私たちが裁判で出した書面の販売等で多額の収益を得ています。暇空茜が流したデマや誹謗中傷は本件以外にも無数にあり、今も、ネットで Colabo と検索するとそれらの動画が大量に出てくる状況で、合計すると数百万回という再生回数になります。Colabo を攻撃すると注目され、儲かることを暇空の手口から学んだ別の加害者たちが模倣して誹謗中傷動画を作り、カンパを数百万～数千万円集めることも繰り返されており、私たちの被害回復には到底至っていない状況です。

暇空茜は、刑事事件で起訴されても、むしろそのことを利用してさらなる金儲けをしていて、カンパは起訴後、500万円以上増えたとのこと。民事裁判で敗訴し賠償が命じられたり、刑事事件の被告となっても、それすらも金儲けの手段となっています。差別やデマを生み出し、加害すればするほど儲かる状況があり、ミソジニーの収益化に歯止めをかける判決には至っていません。デマや誹謗中傷の違法行為によって得た利益を回収し、被害者に対する賠償額に上乘せするなど、加害者が利益を得られないような対策を打たなければ、このような加害はなくなりません。デマや差別、ミソジニーの収益化に歯止めをかける議論や法整備が必要です。

加害者がデマや誹謗中傷で儲けたり、それをもとに都知事選に出馬して10万票の支持をアツめるなどしている一方で、Colabo は、暇空茜からデマを拡散されてから約3年間、根拠なきデマや誹謗中傷を受け続けてきました。220万円という賠償額は被害に見合うものではありません。

妨害により、行政が支援を控えたり、「これだけ騒がれているのだから何かあるのだろう」と思われてしまい、寄付が減ったりしました。失った金額は年間で5千万円を越えており、デマ拡散から3年が経過しようとしています。Colabo を支援する企業等への嫌がらせもあることから、寄付を控えるなどして支援を得られにくい状況が続いてきました。

また、暇空茜は、Colabo を支持する人たちを次々と訴えて、周囲から孤立させたり関係者を疲弊させようとしたりもしています。メディアが Colabo の受けた被害を報じようとした際にそれが妨害されることもあり、Colabo に関わると面倒なことになると、行政もメディアも委縮してし、妨害が過激化したこともありました。

デマに影響された者たちにより、スタッフの自宅や個人情報、シェルターの場所の特定や拡散をされ

たり、私が街を歩くと複数の男たちに囲まれて撮影されるようになっていたり、事務所前に張り込まれる、後をつけられる、活動場所への突撃や生配信等の嫌がらせを受けるようになりました。そのため、シェルターの移転や活動の縮小など、事業への深刻な影響が今も続いており、私も含め、スタッフや少女たちは今も、日々の生活でも身の危険や恐怖を強く感じています。

殺害予告やレイプ予告は毎日のようにあり、嫌がらせメールも一日数万件来つづけています。暇空茜の投稿をきっかけに、Colaboが活動（10代女性向けに夜の新宿で開催している無料カフェ）で使用しているピンクバスの車体が切り付けられる被害もありました。事務所に買っていないものが大量に届いたり、生理用ナプキンが一枚だけ送られてくるとか、性的な嫌がらせも無数に受けています。さまざま被害が日常的に繰り返されているので、痛みを感じることもできないくらい麻痺してしまっているような状況です。

私たちはこれまで、暇空茜に対して、Colaboに関連する15個の裁判で勝訴を重ねてきました。一連の裁判では、暇空茜による11個のデマが認められ、暇空茜による情報開示請求や監査請求等が、女性差別に基づく嫌がらせ目的であることも認定されました。

一連の攻撃では、本来、市民の権利であるはずの情報開示請求等が合法的な嫌がらせとして行われています。そこで得た情報を歪曲して新たなデマを生み出したり、暇空茜を模倣して情報開示請求を行い、虐待から逃れて保護した少女たちの情報や、活動の運営体制などを探ろうとする者も多く、一部の自治体が保護した少女に関する詳細な情報を加害者に開示し、SNSで拡散される被害も起きています。それらは少女たちの命にかかわる深刻な影響をもたらしています。

そのことで、最も苦しい状況に追いやられるのは、暴力にさらされている少女や女性たちです。少女たちが社会を信頼し、支援団体が妨害に委縮せず活動できるようになることは、女性の人権が尊重される社会づくりに必要不可欠です。

暇空茜やそれを支持する人たちによる攻撃は、少女たちが暴力から逃れ、安心して過ごせる場所を得て、長い時間をかけて傷をいやし、他者や自分自身への信頼を取り戻して回復していく、女性達の尊厳を守る活動を脅かすものです。こうした攻撃がお金になり、デマを拡散すればするほど注目される。その状況が裁判でこれだけの勝訴を重ねても続いています。

そして、刑事事件で起訴されても反省する様子もなく、それすら金儲けの手段になっています。それに対して、Colaboには、暇空茜が起訴されてから嫌がらせが過激化して、殺害をほのめかすメールが連日数万件届いています。

このような状況では、有罪判決が下されても罰金刑や執行猶予などの判決では、暇空茜による誹謗中傷攻撃は今後も止まらないことが容易に予想されます。そうした暇空茜の様子を見て、彼を模倣する人たちも、このくらいやってもかまわないんだということで手を止めることがありません。

これまでも、私たちは根も葉もない誹謗中傷により苦しめられ、正直にいうと、いつ人が死んでもおかしくないような状況のなかで、耐えてきました。これ以上被害が拡大し続ければ、持ちこたえられません。

刑事訴訟において暇空茜に対して、実刑判決が下されることを強く望んでいます。

以上